

## ポスター③

### 一般用医薬品の提供を促進するために ～セルフメディケーションにおける薬局間の連携～

若松町店  
○薄葉 ゆかり  
馬場 拓也

#### 【目的】

厚生労働省は 2025 年問題に向けて地域包括ケアシステムの構築を強く推進している。それに伴い薬局は対人業務に重点を置いた健康サポート薬局として機能すること、薬剤師は地域住民の主體的な健康維持・増進を支援するために健康の維持・増進に関する相談を幅広く受け付け、一般用医薬品(以下、OTC)の適正な使用に関する助言や必要に応じて受診勧奨などを実施することが求められる。

#### 【方法】

調査対象を女子医エリアの薬剤師 34 名、対象期間を H28. 4～7 月とし、OTC 販売の状況や顧客の訴えなどについてのアンケートを実施した。

顧客対応の仕方や店舗間で連携出来ることはないか検討するために各店舗の OTC 販売状況や購入商品の傾向などを調査し、アンケート結果から OTC の購入を検討した理由、顧客が抱える OTC に対する疑問などを抽出した。

#### 【結果】

購入検討の理由として多かったのが常備薬として使用している、受診してもらっている時間が無い、症状をいち早く改善したいなどが多かった。その中には医師からの勧めで OTC 薬の購入検討する人もいることが分かった。

OTC に対する疑問としては病院で処方されている薬と同じ成分が入っている OTC はないか、今ある症状を改善するには OTC であれば何を使用すれば良いなどが挙げられた。その中には、現在処方されている薬に加えて OTC も使用したいので併用しても良いか確認してほしいとの意見もあった。

#### 【考察】

今回アンケートを実施したことで一般の人のセルフメディケーションに対する意識を知ることが出来た。OTC 購入者の多くに共通していたことは手軽さや利便性を求めていることである。けれど、実際に顧客が求める OTC を扱っていないことが多いのが現状であるため、解決策として各店舗で扱っている OTC の情報を一覧化して共有することで店舗間の連携をはかり、より顧客の希望に応えられるのではないかと考える。